

CULTURE

市民会館跡地エリアが立体的公園に
2023年度の完成を目指す

2015年に閉館した茨木市民会館の跡地が、大きく生まれ変わろうとしている。今年3月に整備事業者が決定し、緑豊かな景観と建築が融合した「立体的な公園」のような公共空間のイメージが公開された。市が市民と一体となって進めてきた計画が動き出し、市民の新たな「心の中心地」として期待が寄せられる。

一市長と対話「100人会議」

市中心部にあり、長年、市民に親しまれてきた同会館は、経年劣化や耐震性の課題などを理由に2015年に閉館した。同会館の跡地活用を検討するに当たって、立場や年齢問わず市民の意見を聞くため、市民5,000人を対象にアンケート調査したほか、無作為抽出した市民と市長が直接対話する「100人会議」を10回開催。市民の意見や“想い”を踏まえた基本構想などを策定した。

一基本構想

市はコンセプト設定のため、100人会議で得られた4つのキーワード「ホール」

「憩いの場」「交流の場」「賑わいの場」に加えて、最終報告会ワークショップで得られた視点、行政として検討した政策課題を元に検討。市民がやりたいこと、過ごし方を育てる場を提供するという意味を込め、キーコンセプトを「育てる広場」とした。

大ホールなど「市民のハレの場」としてのホール機能に加え、「サードプレイス」として、憩いやコミュニティの場としての活用を見込む芝生広場や、大屋根を中心に広場から多目的ホールまで一体的にぎわいを創出するエントランス空間、一時預かりや相談窓口、母子保健など、切れ目ない子育て支援を行う「いばらき版ネウボラ」など、魅力ある機能を導入することとした。



大ホール



北西より芝生広場、建物外観

一竹中工務店・伊東豊雄建築設計事務所が提案「立体的な公園」

今年3月、「竹中工務店・伊東豊雄建築設計事務所共同企業体」が整備事業者に決定。共同企業体は「日々何かが起こり、誰かと出会う」をコンセプトに、開放的なテラスや緑を積極的に配置した「立体的な公園」のような空間を提案しており、2023年度の完成を目指す。

新施設は中央公園南グラウンド南側緑地に建設し、同グラウンド北側を芝生などの広場に、会館跡地、福祉文化会館は建物を解体後に公園として活用する予定。



子育て世代包括支援センター部分



図書館メインフロア

EVENT

今年でファイナル「ゆるキャラグランプリ」
地元ゆるキャラを応援しよう

全国の自治体や企業などのマスコットキャラクターの人気を競う「ゆるキャラグランプリ」が、今年で最後を迎える。同イベントは、2011年に「くまモン」が初代王者となり、ゆるキャラ人気を一気に押し上げた。ラストの今回は689体がエントリーし、北摂からはセッピーなす丸くん(摂津市)、いばらき童子(茨木市)、滝ノ道ゆずる(箕面市)などが参加。9月25日までインターネット投票を受け

付け、10月に岩手で行われるイベント当日の決戦投票との合計結果でグランプリを決定する。公式HPからメールアドレスを登録すると1日1回投票できるので、地元のゆるキャラに投票して応援しよう。公式HPは「ゆるキャラ」で検索。



セッピー(左)、いばらき童子

SOCIAL

茨木市で電子書籍の貸し出しが
スタート

茨木市は7月22日、図書館で電子書籍の貸し出しを開始した。市内在住、通勤、通学している小学生以上に向けたサービスで、図書館利用カードとパスワードを持っている人なら誰でも利用できる。子ども向けとして調べ学習の本、学習マンガや外国語絵本、大人向けとしては資格・語学書を中心に約1,500点がそろそろ。利用は3点までで貸し出し期間は15日間。図

書館HPから貸し出しや予約ができ、ネット環境があれば対応するウェブブラウザで閲覧可能。開始直後からパスワードの登録者が急増し、SNSでも電子書籍のことが書き込まれるなど反響があったという。担当者は「コロナの影響で図書館に来られない人も多いと思いますので、家でたくさん読書を楽しんでください」と話している。

コラム
COLUMN

フカボリ調査

各市 名前の由来

皆さんは地元や近隣のまちの名前の由来についてご存じでしょうか。知っているようで知らない、少し気になる市の名前の由来について調べてみました。

【茨木市】

土地にイバラの木が多く茂っていたことに由来するというのが有力。茨木神社の由緒書によると「大同2(807)年 坂上田村麻呂が荊切の里をつくりしとき」とあるそうです。また「茨木」の漢字で地名として出てきたのは、1200年の「神国正田地売券」(勝尾寺文書)が古く、「島下郡中条茨木村」と記されています。同文書に「荊切」「荊切」、別史料には「荊藤木」とも。

一方、「日本霊異記」に私度僧の石川沙弥が「味木里」という場所で死んだという話があり、ウマキ→ウマラキ→イバラキと変化したという説もあります。

【高槻市】

かつては「高月」だったという伝承があり、14世紀頃に荘園だった「安満庄」の目録案にその名が初めて登場。「三島地名考」(18世紀)によると、月弓神と素盞鳴神がまつられる社を「天月弓社」、また「高月読社」と呼んだとあり、これが名前の由来とされています。もう1つの説は、神武東征の時に道臣命と味摩治命が神武天皇に抵抗した一族を討伐。その時の軍隊の旗印が月をかたどっていたので、2人が褒美として神武天皇から与えられた土地を「高月」と呼ぶようになったというもの。

「月」が「槻」に変わったのは、戦国時代、

この地にあった槻(ケヤキの古称)の近くに本陣がたてられたからだとか。

【摂津市】

市が誕生した1966(昭和41)年に、全国に市名を一般公募し選ばれました。由来はもちろん「摂津国」。摂津国は日本の令制国の1つで、現在の大阪府北中部の大半と兵庫県南東部に当たります。「摂津」は「難波津」を管理する」という意味。最初は「津国」だったのが、国名を2文字に統一する流れの中で「摂津国」になったのでは、という考察もあります。

いかがでしたか。市名の由来は土地の歴史に繋がります。多くは伝承なので定か

摂津国の地図
「天保国絵図摂津国」
国立公文書館デジタルアーカイブ
<https://www.digital.archives.go.jp/>



はありませんが、深堀りしたら新発見があるかもしれません。

[参考文献]
日本歴史地名大系(28-[2])大阪府の地名(平凡社)、参考ホームページ:茨木神社HP、各自治体HPなど

まちの気になるネタ、
編集部が調査します!!

日常に潜む、まちの気になるネタを読者のみなさんから大募集!どんな小ネタでも構いません。ドンドン応募のほど、よろしくお願ひします。

採用された方には素敵なプレゼントを進呈

[応募方法]

下記URLより応募ください。
採用の場合お電話にて連絡させていただきます。

